

JPCOAR

研究データ作業部会の紹介

2023年4月12日

物質・材料研究機構 田辺浩介

研究データ作業部会とは

1. 研究データ対応を見据えた国内機関リポジトリの役割、機能要件を明らかにし、研究データを公開する基盤に関する整備を行う
2. 国内外の関連機関と連携し、研究データの情報流通促進及び評価に関する活動を行う
3. 研究データの管理・共有・公開を促進するため、研究支援に携わる職員の意識、スキルの向上を図り、会員機関における活動を支援する

機関リポジトリと研究データに
関することならなんでも

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/124>

部会メンバー

- 結城 憲司（九州大学、主査）
- 三上 絢子（北海道大学）
- 小林 裕太（千葉大学、副主査）
- 岩井 雅史（信州大学）
- 田中 幸恵（名古屋大学）
- 甲斐 尚人（大阪大学）
- 西森 哲也（大阪大学）
- 小野寺 千栄（物質・材料研究機構）
- 田辺 浩介（物質・材料研究機構）
- 船守 美穂（国立情報学研究所）
- 古川 雅子（国立情報学研究所）
- 南山 泰之（国立情報学研究所、副主査）
- 松野 渉（国立情報学研究所）

敬称略・所属は2022年7月時点

RDM事例形成プロジェクト

- 「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」の実施
- 機関リポジトリに登録された論文根拠データの分析
- RDM事例カタログの作成

6. 情報インフラの整備状況

このセクションでは、研究データ管理サービスを支える情報インフラの整備状況について伺います。【想定回答先：情報基盤センター等】

Q28. 現在、貴機関における研究データ管理サービスの情報インフラ整備はどのように検討が進められていますか。

1つだけマークしてください。

- 1) ☒ 機関レベルで検討・対応が進められて
- 2) ☐ 部局ごとに検討・対応が進められてい
- 3) ☐ 研究者個人に委ねられている
- 4) ☐ 特に検討・対応は行われていない
- 5) ☐ わからない
- 6) ☐ その他： _____

「国内機関における研究データ
管理の取り組み状況調査」の
アンケート作成

Q29. 貴機関では、研究データを長期的（5年以上）に保存するためのストレージ（オンプレミスまたは商用クラウド）として、ユーザー1人あたりのどの程度の基本容量の提供

研究データ管理事例集

<https://doi.org/10.34477/0002000217>

名前 / ファイル	ライセンス	アクション
2022 RDM case studies Japan.pdf (2 MB)		Download Information

Item type	デフォルトアイテムタイプ (フル) (1)
公開日	2022-09-30
タイトル	
言語	ja
タイトル	研究データ管理事例集
作成者	大学ICT推進協議会 研究データマネジメント部会 オープンアクセスリポジトリ推進協会 研究データ作業部会
内容記述	
内容記述タイプ	Abstract
内容記述	本事例集は、大学ICT推進協議会 研究データマネジメント部会 及びJPCOAR研究データ作業部会による「RDM事例形成プロジェクト」の一環として作成されたものであり、各機関の特徴的

1689

views

total ▼

「研究データ管理事例集」の公開

Versions

Ver.1 2022-09-29
03:08:25.778388

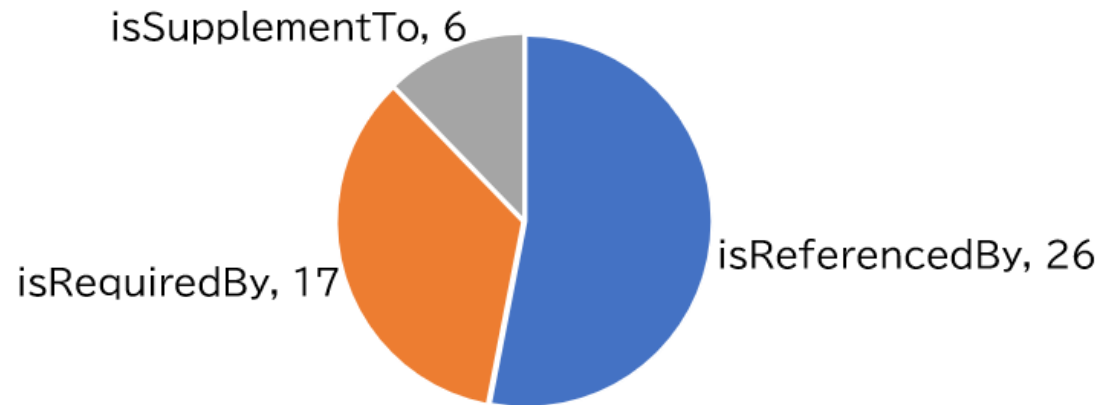
[Show All versions](#)

IRDB収録のメタデータ取得
(NIIコンテンツ課より提供)

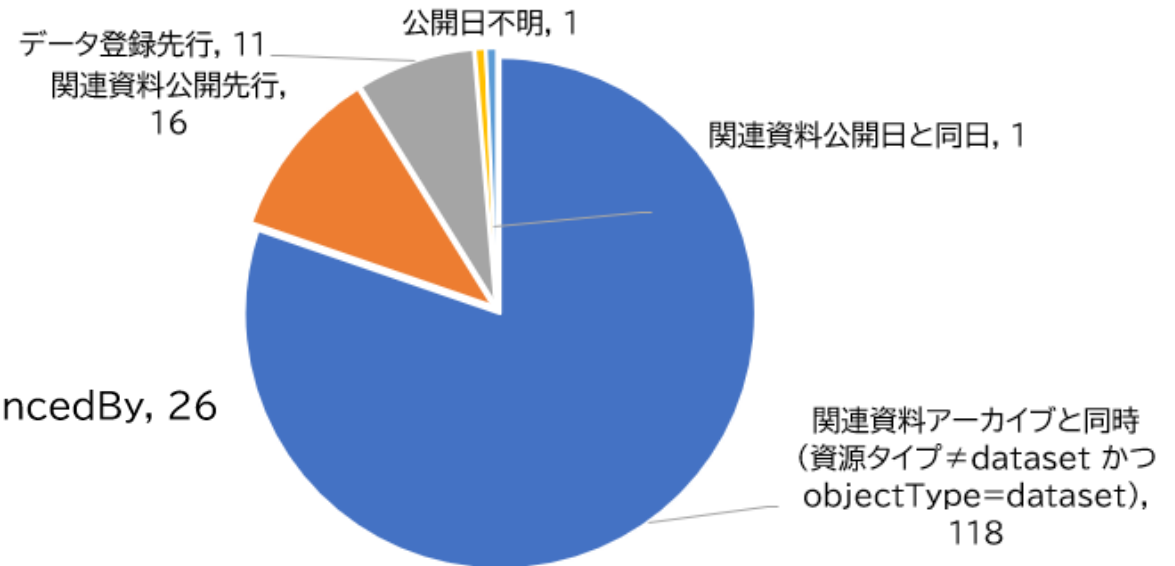
およそ9万件ほど
XML形式
根拠データ以外も含む

JPCOARスキーマ要素を使用して分類
→論文に紐づく研究データのみを自動抽出、集計

機関リポジトリに登録された 論文根拠データの分析



根拠データのメタデータでの
関係資料タイプの分布



根拠データと関連資料(論文など)の
公開タイミング

RDM教材作成プロジェクト

- 学認LMSで公開されるRDM教材の作成
- RDMを取り扱う授業シラバスの収集

GakuNin
LMS

研究データ管理サービスの設計と実践[2022年度版]

登録オプション

学認LMS上の教材

研究データ管理サービスの設計と実践[2022年度版]



講座内容

研究データには、どのように生成され、保存され最終的に再利用されていくのかといったライフサイクルがあります。この講座では、研究データのライフサイクルに沿った形で、サービス設計や研究前の支援、研究中の支援、研究後の支援、学習時間の目安：約4.5時間

第1章：序論（学習時間：約24分）

第1章では、研究データ管理の基礎的な知識として、研究データ管理の背景、研究データ、研究データ管理、研究データ管理<トピック>

1. 第1章の概要
2. 背景

他機関との連携

- AXIES(大学ICT推進協議会) 研究データマネジメント部会
- NISTEP
- 国大図協資料委員会オープンサイエンス小委員会

情報基盤スタッフ向けRDM教材

組織でのRDM体制整備を進める上で、情報基盤関係者が学ぶ、あるいは実施することがまれる事項を教材としてまとめています。

JPCOAR研究データ作業部会で作成された、「教材「研究者のための研究データマネジメント」」より「研究者と共有すべきRDM基礎知識」を抜粋し、「情報基盤関係者が学ぶこと、実施する事項」を追加することで検討を進めています。

現在、最終版の確定に向け、皆様に閲覧いただきご意見をいただきたく存じます。

現在作成中の教材

現在作成中の教材は、Google Drive ([リンク先](#)) で公開しています。
ご意見等は、上記Google Driveのファイルに直接コメントを記載いただくか

最終版の確定は2022年6月末を予定しています。

https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/project/RDM_for_ITstaff

作業部会に参加する意義

- 他大学や研究機関に知り合いが増える、いろいろな話を聞ける、オープンサイエンスに貢献できる、などいろいろありますが...
 - いちばん大きいのは「自分のやることが、みんなにとっての先進事例になる」こと
- 私たちといっしょに、ちょっと自慢できる仕事をしてみませんか
 - 新しいテーマ也大歓迎です